

今からちょうど100年前、1917年(大正6年)5月1日、井の頭池を中心とした周辺が、人口が過密化した東京市民のための郊外公園として誕生しました。井の頭恩賜公園の誕生です。井の頭は、当時としては遠方でありましたが、鉄道の便が良いことや、名勝地として知られていたこと、神田上水の水源として歴史的にも意味のある場所であったことが選ばれた理由として挙げられています。その後の100年の歩みは、大正・昭和・平成と、都市の変化と時代の要望に応えながら変遷してきました。

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その14

オオサンショウウオ と 木船 崇司さん



四肢を踏ん張る威風堂々の貫禄は、さすが世界最大の両生類。1991年生まれ、満26歳になった井の頭自然文化園のオオサンショウウオは、ただいま全長108cm、体重11.4kg。飼育下では50年以上生きるともいわれているので、まだまだ成長途上です。

野生では岐阜以西の上流域に生息します。「中流にもいたかもしれませんが、開発などで棲めなくなってしまうようです」と担当飼育員の木船崇司さん。体はまだら模様で岩に似、片や頭はツブツブに覆われ、じっと観察しているとツブツブの間に潜んだ目が見つかります。

「体が何かの下にある状態が好きなんです」と木船さん。切り株を水槽の正面に置いたところ、木船さんの狙い通りそこに頭を突っ込んで、お客さんに顔を向けて過ごすようになりました。微動だにしないかと思ったら、鼻だけ水面に出して呼吸したり、水中でがば一つと口を開いてあくびしたり。一転、食事時には野性味のある姿を見せます。えさは週1回程度、月2回与えられるニジマスが好物で、「後敏にパクッとひと飲み。そこから、もぐ、もぐ、とゆっくり食べます」。

希少性のわりに、意外と丈夫。水をきれい保つことが大前提ですが、「井戸水の掛け流しができるのが、井の頭のいいところです!」。

に始まって「かいぼり」まで続く一連の井の頭池の浄化と外来生物駆除の活動と、「アートマーケッツ」や「井の頭公園検定」など、公園の再生と魅力を高める様々な活動であります。

前者は、説明するまでもありませんが、子供たちの人気動物も、年月を経て形成された素晴らしい景観も、容赦なく消してしまふ戦争の悲惨さを改めて知らされたことです。後者は、公園の恩恵にあずかる市民が、独自で、あるいは管理する東京都と協力して、公園の再生と、魅力を高めるしくみを創り上げたことであります。

井の頭公園の100歳を祝うとき、100年の歴史が教えてくれた、平和の大切さと、市民参加による公園の再生と魅力発信の力強さを、これからも守り続けていくことが、私たちからの一番の100歳プレゼントだと思うのです。

第13回 いのけん受験講座

いのけん1級問題です。()内に当てはまる言葉を入れて下さい。

Q1. 井の頭恩賜公園は、1917(大正6)年5月、(①)が皇室御料地の御下賜を受けて日本初の(②)型公園として開園しました。

Q2. 井の頭恩賜公園100年実行委員会は、100周年に向け、「(①)の再生」「(②)とする街の賑わいの創出」を柱とした事業を展開しています。

Q3. 井の頭池の再生をめざして、水の浄化と外来魚の駆除を行う取り組みを(①)といいます。

答えは裏面のインフォメーションのところだよ



そんなキランソウが昨年、井の頭池の北側の一角に70株以上生えてきました。そこは公園による草刈りが行われていた場所で、さらに我々が、草刈りでは根絶できない外来種のトキワツユクサを丁寧に除草し、池から駆除したアメリカザリガニの一部を土に還していた、つまり土を肥やすために埋めていた場所でした。土が掘り返されたことで埋土種子が地表に現れ、日光を遮る草も無くなっていったため発芽・生長したのでしょう。かいぼり後の井の頭池に何種類もの水草が生えてきて人々を驚かせたのと同様のことが地上でも起きたのです。せっかく復活したこの草を再び絶やさないため、井の頭かんさつ会はこのエリアの管理を任せてもらい、どの程度の除草や世話が必要かを知るためのテストを行っています。

井の頭公園では、笹刈りが行われたり土が掘り返されたりした場所に、近年見かけなくなっていた植物が生えているのに気づくことが少なからずあります。我々はキランソウのほかにも、ジュウニヒトエや、ホタルブクロ、オトコエシなどを見つけ、草刈りや盗掘などから守る処置をしています。御殿山に一昨年ごろ復活したフジバカマも、誰かが種を蒔いたり植えたりしたのではなく、笹刈りをした場所に自然に生えてきたものだと思っています。土の中には井の頭恩賜公園100年間の遺産が、もしかするとさらに前の時代からの遺産が、まだいろいろ埋まっている気がします。

井の頭公園の生き物たち その34 キランソウ

井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。

田中 利秋 (たなか としあき)

井の頭かんさつ会



生えてきた株 60 番

土中に眠る歴史

シソ科の多年草で在来種です。珍しい植物ではないのですが、現在の井の頭公園では希少種です。地面に張りつくように生えるため、他の草に光を遮られる場所では生きられません。頻繁に踏みつけられる場所でも無理です。園路と草地の境目に生えているのを時々見かけますが、長続きしません。草刈りが地表ギリギリまで行われるため、キランソウでさえ刈られてしまいます。根に蓄えた栄養で再び葉を広げても、草刈りは年に3度ほど行われるため復活できないのです。

私と井の頭公園 その34 ひとこと特集 前

このコーナー「私と井の頭公園」に登場していただいた方は、現在まで32人。2回に分けて、印象に残った言葉を紹介します。(敬称略)

■「暑い日だったと思うわ、当時は前の道が舗装されていないでしよう、土ぼりをするから池の水を汲んで道路に撒いたの、そうしたら道路がピンクに染まったのよ、びっくりしたわ。よく見たら、何だと思う、エビがたくさん、熱くなっていた地面の上で茹で上がっていたの」「3号・茶店の女将富岡俊子」■「ミス井之頭になってから環境が一変しました。東宝や大映などの映画会社からスカウトが来て、結局、あこがれの京マチ子のいる大映に行きましたが、映画の仕事は向いていませんでした」「6号・元ミス井の頭加藤幸代」■「井之頭町会が先頭になって、『立派な自然林を後世の人々に残すのが我々の義務だ』と、東京都に公園緑地として残して欲しいと運動をしたんだよ。その成果が第二公園として残った。そりゃ簡単なことじゃないよ、住民同士でもいろいろあった。でもね町会が奔走して住民の意見をまとめたんだよ」「8号・元井之頭町会役員大竹茂」■「ボクシングをやめて、急に何もなくなるとダメなんだよ。徐々に体を慣らしながら落としていかないとね。それで、犬の散歩と合わせてジョギングを始めたんだよ。ついでにゴミ拾いもね。これを「石三鳥と言っているんだ。ハハハ。」「9号・元世界王者輪島功二」■「犬の散歩で毎日井の頭公園に行っており、いつも私の犬を呼び止める一団が大量のエサを力もカメに与えていました。皆良い人たちなのですが、そこに群がる生き物たちの姿は自然の姿とは程遠く、おぞましく、醜いものに見えました」「10号・現在井の頭かんさつ会 大原正子」■「動物園や動物にのめり込まないようにしているんです。ちょっと距離を置いていた方がいいと。なんとなか／＼デザインがでなくなっているのです」「13号・井の頭自然文化園専属デザイナー 北村直子」■「根本的な解決は、湧水の復活です。ありえない話にしないで、『やろうよ』と思え、出来ることからやっていたいですね」「14号・生態工房片岡友美」■「人は自然に対する畏怖やその尊厳を忘れてはならないことだと思っています。ソウのはな子は、みなさんの距離感では見えにくい、感じにくいかも知れませんが、そういう意味で私たちに、可愛いさと同時に大自然の畏怖や尊厳を教えてくれる大切な象徴なのです」「18号・元「はな子」飼育員 室伏三喜男」

(聞き手 川井信良)

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭 吉祥寺 三鷹

34号 2017年5・6月号

2016年(平成29年)5月1日

編集・発行 いのきちゃん編集委員会 編集長 川井信良 東京都三鷹市上連雀1-12-17 株式会社文伸 発行 電話 0422-60-2211 FAX 0422-60-2200 メール inokichi@pun-shin.co.jp

協力 東京都西部公園緑地事務所 東京都井の頭自然文化園 井の頭恩賜公園100年実行委員会 NPO法人みつか都市観光協会 一般社団法人武蔵野市観光機構

制作支援 株式会社文伸/ぶんしん出版

井の頭恩賜公園 開園100周年に なりました!

お花見の賑わいも一段落。新緑の5月1日井の頭公園百周年の記念式典が催されました。一週間もお祝いイベントが続く、この公園は市民にとっても愛されているのだとアオサギ爺さんはつくづく感じました。市民パワーにより2回行われた「かいぼり」のお陰で、井の頭池には新しい仲間もふえ出しました。

絵のうさぎこ 文瀬能けい子

せのうさぎこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

34 雌雄の違い

楽園はよみがえるか!

カイツブリ通商

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。



産卵直後

卵を産んだカイツブリが立ち上がり、翼を震わせています。何度も見た光景ですが、このときは驚きました。オスだと思っていた方が産卵したからです。雌雄同色と言われるカイツブリですが、長年の観察の結果、雌雄には体色や体形に微妙な差があることに気づいていました。行動も微妙に異なり、たとえば縄張りを守るのは主にオスの仕事でした。この個体はそれらの点で「オス」だったのです。しかし、それらは必ずしも正しくないことが今回分かりました。カイツブリは私が考えていた以上に雌雄対等で、明らかな雌雄の違いはメスしか卵を産まないことだけのようです。

4月15日現在、井の頭池のカップルは5組で、1組にヒナが1羽だけ生まれています。写真の七井ペアは4個の卵を抱いており、間もなく孵る予定です。他のカップルは安全な巣作り場所を見つけているのに苦労しています。増えた天敵の存在も問題です。事情は様々ですが、どのカイツブリも懸命です。

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://tnt-lab.eco.cooocan.jp/>

▼ 桜吹雪の中でのワナあげ作業開始!



よみがえれ! 井の頭池 34

大忙しの「かいぼり隊」、イベントでは体験会も♪

冬の間は池での活動をお休みしていた「かいぼり隊」が、4月2日から外来生物駆除を再開しました。在来生物にとって大敵のアメリザリガニを防除するためのワナは、昨年は130個だったのを170個に増やし、池のあちこちに沈めました。モニタリングの結果、興味を引かれますね。

5月1日〜7日に開催される100周年イベントでは、「かいぼり隊」も出席。池の生物や植物に関する展示や、昨年「井の頭100祭」や「井の頭池生きもの博」で大好評だったザリガニのワナ上げ体験イベント「チョコットかいぼり隊」の参加も募ります。詳細は<http://inokishipark100.com/>

みなさんも、お出かけしてみたいかがですか? ワナ上げ体験は、約1時間。親しみのある池に「こんな生き物がいるんだ」と、新たな発見と興奮のひと時が楽しめるので、ぜひご参加ください。



写真 古賀 親宗(がものり)
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

東京都立井の頭恩賜公園が2017年5月1日に開園100周年を迎えるに
あたり、地元の印刷・出版業の株式会社文伸の創業50周年記念事業として
発刊されたのが『いのきちさん』です。2011年11月1日の創刊から、井の
頭公園の魅力を伝えるミニコミとして隔月奇数月の1日に発行されています。
名前の『いのきちさん』は、井の頭公園の『いの』、吉祥寺の『きち』、三鷹
の『さん』を並べたものです。

『いのきちさん』のホームページができました！更新中！
<http://www.inokichisan.com/>

スマートフォン対応

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

この印刷製品は、環境に配慮した製法で印刷されています。
GREEN PRINTING JPPF P-010010

VEGETABLE OIL INK 280

井の頭自然文化園

- 春のスタンプラリー「Plantanima〜植物と動物〜」
植物と動物の関連に注目したスタンプラリーです。
・期間：2017年4月22日(土)〜5月28日(日)
 - 彫刻館特設展 Art and the Zoo vol.3
「西浦裕太作品展・カラトライトコ」
・期間：2017年2月14日(火)〜5月14日(日)
・時間：9:30〜16:30 (彫刻館の閉館時間)
・場所：井の頭自然文化園 動物園(本園) 彫刻館B館
「たどり着く頃には月の言葉もわかるようになっていた」
- 詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

- 【ネイチャー☆プログラム】 次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。
- ソリーマジック(第2公園) 5月1日(月)、5月2日(火)
5月21日(日)、6月25日(日)
 - あおぞら実験室(井の頭池付近) 5月7日(日)、6月4日(日)
 - グリーンバード(井の頭池付近) 5月14日(日)、5月28日(日)
6月11日(日)、6月25日(日)
 - どんぐり広場(三角広場) 5月18日(木)、6月15日(木)
- 詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html> に載せます。

井の頭かんさつ会

- 第145回「水辺の生き物」 5月21日(日) 10:00〜12:00
 - 第146回「変形菌」 6月25日(日) 10:00〜12:00
- 事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

特設展「アジアゾウはな子の69年」の終了とゾウ舎での展示

2016年7月12日から始まった資料館特設展「アジアゾウはな子の69年」は、はな子の思い出がいっぱい詰まった特設展でした。みなさまからのご要望にお応えして、数度にわたる会期延長を繰り返しましたが、2017年1月29日をもって、いったん終了いたしました。

しかし、せっかく作ったパネル等や資料を有効活用しようということで、一部をアジアゾウ舎に移して、展示を継続しています。

はな子が暮らした部屋を使つての展示です。はな子を思い出しながら、その歩んで来た道のりを想像していただければと思います。

一部、展示しきれない部分もありますが、これから徐々に整備していきたいと思っています。

はな子が過ごしたアジアゾウ舎に是非おいで下さい。

(井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉)



いのきちさん編集委員の井の頭公園と私

- 5年半前、井の頭公園の魅力をカウントダウン式に開園100周年まで伝えようとした「いのきちさん」が、予定の100周年になつてしまった。ほっとするより寂しい気分になってしまっているのは想定外。
川井 信良
- 100周年おめでとうございます。私が見たのは40年ほどですが、公園の自然を再生するために多くの市民が活躍するようになったこの10年間に立ち会えたのは幸せでした。それが今後も広がることを期待しています。
田中 利秋
- 歴史を紐解き伝える面白さに、私を誘ってくれた井の頭公園。100年の間には悲惨な戦争があったけど、今後200年、300年…ずーっと平和が築かれ、みんなの憩いの場であり続けてくれるよう、弁天堂に祈っています。
安田 知代
- 取材を通じて、また一読者として、『いのきちさん』1号ごとに井の頭公園の奥深さに触れ、記事を読んだように公園へと足が向く。少しずつ詳しくなれば、100周年を迎えました。明日もきっと井の頭公園を歩いています。
小田原 澤

- 100周年の一刻に立ち会えた喜びと、人と動物と植物とが優しくすれ違う交差点で、これからもどんなイノコガノメに出会えるか僕自身楽しみです。ファインダーを覗けない時は目を閉じてみるのもいいですね。
古賀 親宗
- 公園にある史跡などを調べ出すと、どんどん興味が湧いてきて、常に新しい発見をする。井の頭公園は実に奥が深い。かいばり隊に参加することで自然環境や生物多様性など、知らなかった分野にも引き込んでくれた。
渡邊 安浩

- 吉祥寺駅まで徒歩15分。高校、専門学校、就職してからと井の頭公園の橋を渡り通いました。四季折々の公園風景にいつも癒やされていました。私に取っては、空気のようになくはない大切な存在です。
せのう さちこ

井の頭公園開園100周年を祝して待望の2冊刊行

井の頭公園100年写真集
2,800円+税
日本で初めての郊外公園として誕生した井の頭公園の100年の変遷を紹介するもの。

井の頭公園 いのきもの図鑑
1,600円+税
井の頭公園にこんなに生きものがいるなんて！自然好き、生きもの好き、井の頭公園好き必携の一冊

お問い合わせ
ぶんしん出版
☎0422-60-2211

2017 5/1 発売

- 公園も地域もますます発展
1999年(昭和44年) ポート場開設。
1993年(昭和48年) 弁天堂の南側に25mプール開設。帝都電鉄井の頭線、井の頭公園駅まで開通。
1934年(昭和9年) 中之島小動物公園が開園。帝都電鉄井の頭線、吉祥寺駅まで開通。
1936年(昭和11年) 中之島に水生生物館開館。中之島にラクウショウ植樹。
●日中戦争開戦
1939年(昭和14年) 「井の頭学校」が秋山に移転。
●関東大震災。
1924年(大正13年) 4月26日の火事で、家光の時代に建てられたと伝えられる弁天堂が焼失。再建は1927年(昭和2年)。
- 弁天堂が火事で焼失！
1933年(大正12年)
●関東大震災。
1924年(大正13年)
- 来園者が増加。施設も充実。
1919年(大正8年)
1910年(明治43年) 井の頭公園の計画案、東京市会に提出。
1913年(大正8年) 宮内省が、御殿山御料地を東京市に公園地として下賜。
1917年(大正6年) 井の頭恩賜公園開園。もともとある植物が生かされ、杉木立の美しさが評判に。
池の一部に、飛込み台の設置された水泳場が開設。東京市営公園のプール第1号。
1922年(大正11年) 池の中央に「中の橋(現・七井橋)」が完成。



井戸水利用のプールは、水の冷たさが長年の語り草に。
(須田伸一 提供)

- 当初は手漕ぎボートのみ。足漕ぎやスワンはなかった。
(東京都公園協会 提供)
- 再建されたお堂は、今も健在。
(東京都公園協会 提供)
- 江戸時代初期の建立と伝えられる弁天堂が、火事で焼失。
(高木英笑 提供)
- 橋ができる前は「ハリガネワタシ」と呼ばれる渡し舟があった。
(東京都公園協会 提供)
- 天然池の水は冷たく、真夏でも入れたのは日中2時間程度。
(東京都公園協会 提供)
- 開園時の案内図。
(須田伸一 提供)
- 「井の頭学校」の生徒たちが、実習で公園工事の一部を担当。
(須田伸一 提供)
- 「井の頭の池 弁財天の社」は、歌川広重「名所江戸百景」の一作。
(東京伝統木版画工芸協同組合の複製版)
- 再び、人々の憩いの場に
1950年(昭和25年) 象のはな子が移動動物園で初来園。
1952年(昭和27年) 自然文化園内に北村西望のアトリエ建設。長崎の平和祈念像の制作開始。
1953年(昭和28年) 橋の架け替えて、旧「中の橋」が一般公募で「七井橋」と命名。
1954年(昭和29年) 上野動物園から象のはな子が移住。
「井の頭カーニバル」開催、「ミス井の頭コンテスト」も開催。
1956年(昭和31年) 池の北側に野外ステージ完成。
1962年(昭和37年) 西側台地で縄文時代の竪穴式住居跡発掘。
1963年(昭和38年) 井の頭池大洪水。
広がる文化事業や環境活動
1990年(平成2年) 第一回三鷹国際交流フェスティバル、西園で開催。
2001年(平成13年) 三鷹の森ジブリ美術館開館。
2003年(平成15年) 玉川上水が国の史跡に指定。
2006年(平成18年) 「アートマーケット」開始。「井の頭恩賜公園100年実行委員会」発足。
2007年(平成19年) 「エサやり自粛キャンペーン」が市民団体を中心にスタート。
2008年(平成20年) 「井の頭公園をまるごとガイドブック」発行。
2011年(平成23年) フリーペーパー「いのきちさん」発刊。
2012年(平成24年) 第一回「井の頭公園検定(通称いのけん)」実施。
2013年(平成25年) 巳年4月の大例祭で弁財天御開帳。宇賀神象、弁天堂脇に移設。
2017年(平成29年) 井の頭恩賜公園開園100周年。



手作業で丹念に外来生物を除き、在来生物を保護。
(西部公園緑地事務所 提供)

- 1999年(昭和44年) ポート場開設。
1993年(昭和48年) 弁天堂の南側に25mプール開設。帝都電鉄井の頭線、井の頭公園駅まで開通。
1934年(昭和9年) 中之島小動物公園が開園。帝都電鉄井の頭線、吉祥寺駅まで開通。
1936年(昭和11年) 中之島に水生生物館開館。中之島にラクウショウ植樹。
●日中戦争開戦
1939年(昭和14年) 「井の頭学校」が秋山に移転。
●関東大震災。
1924年(大正13年) 4月26日の火事で、家光の時代に建てられたと伝えられる弁天堂が焼失。再建は1927年(昭和2年)。
- 弁天堂が火事で焼失！
1933年(大正12年)
●関東大震災。
1924年(大正13年)
- 来園者が増加。施設も充実。
1919年(大正8年)
1910年(明治43年) 井の頭公園の計画案、東京市会に提出。
1913年(大正8年) 宮内省が、御殿山御料地を東京市に公園地として下賜。
1917年(大正6年) 井の頭恩賜公園開園。もともとある植物が生かされ、杉木立の美しさが評判に。
池の一部に、飛込み台の設置された水泳場が開設。東京市営公園のプール第1号。
1922年(大正11年) 池の中央に「中の橋(現・七井橋)」が完成。



井戸水利用のプールは、水の冷たさが長年の語り草に。
(須田伸一 提供)

- 当初は手漕ぎボートのみ。足漕ぎやスワンはなかった。
(東京都公園協会 提供)
- 再建されたお堂は、今も健在。
(東京都公園協会 提供)
- 江戸時代初期の建立と伝えられる弁天堂が、火事で焼失。
(高木英笑 提供)
- 橋ができる前は「ハリガネワタシ」と呼ばれる渡し舟があった。
(東京都公園協会 提供)
- 天然池の水は冷たく、真夏でも入れたのは日中2時間程度。
(東京都公園協会 提供)
- 開園時の案内図。
(須田伸一 提供)
- 「井の頭学校」の生徒たちが、実習で公園工事の一部を担当。
(須田伸一 提供)
- 「井の頭の池 弁財天の社」は、歌川広重「名所江戸百景」の一作。
(東京伝統木版画工芸協同組合の複製版)
- 再び、人々の憩いの場に
1950年(昭和25年) 象のはな子が移動動物園で初来園。
1952年(昭和27年) 自然文化園内に北村西望のアトリエ建設。長崎の平和祈念像の制作開始。
1953年(昭和28年) 橋の架け替えて、旧「中の橋」が一般公募で「七井橋」と命名。
1954年(昭和29年) 上野動物園から象のはな子が移住。
「井の頭カーニバル」開催、「ミス井の頭コンテスト」も開催。
1956年(昭和31年) 池の北側に野外ステージ完成。
1962年(昭和37年) 西側台地で縄文時代の竪穴式住居跡発掘。
1963年(昭和38年) 井の頭池大洪水。
広がる文化事業や環境活動
1990年(平成2年) 第一回三鷹国際交流フェスティバル、西園で開催。
2001年(平成13年) 三鷹の森ジブリ美術館開館。
2003年(平成15年) 玉川上水が国の史跡に指定。
2006年(平成18年) 「アートマーケット」開始。「井の頭恩賜公園100年実行委員会」発足。
2007年(平成19年) 「エサやり自粛キャンペーン」が市民団体を中心にスタート。
2008年(平成20年) 「井の頭公園をまるごとガイドブック」発行。
2011年(平成23年) フリーペーパー「いのきちさん」発刊。
2012年(平成24年) 第一回「井の頭公園検定(通称いのけん)」実施。
2013年(平成25年) 巳年4月の大例祭で弁財天御開帳。宇賀神象、弁天堂脇に移設。
2017年(平成29年) 井の頭恩賜公園開園100周年。



手作業で丹念に外来生物を除き、在来生物を保護。
(西部公園緑地事務所 提供)

祝 井の頭恩賜公園100周年！

公園は、過去からの贈り物
あなたにとって、井の頭公園はどんな存在ですか。そして、どんな気持ちで100周年を迎えていますか。きつとお一人お一人、それぞれの物語が心にあり、彩り豊かな思いがあることと想像します。
吉祥寺の街と住宅地に囲まれた公園は、都市空間に残された水と緑の孤島のようです。穏やかな池の水面と木々の葉のざざめきが心を癒し、生きる力を養ってくれる包容力豊かな場所です。
いつもは歴史のエピソードをお伝えする連載「井の頭恩賜公園の歩み」、今回は拡大版の年表です。たくさんの方の思いや尽力によって受け継がれてきた公園の足跡を、辿ってみましょう。

安田 知代

編集者ライター。『井の頭公園をまるごとガイドブック』(福かしの吉祥寺別荘29・40号) 編集。



開園の頃の井の頭池。水草が豊かに茂っていたことが見て取れます。
「井の頭公園100年写真集」(ぶんしん出版)より (須田伸一 提供)